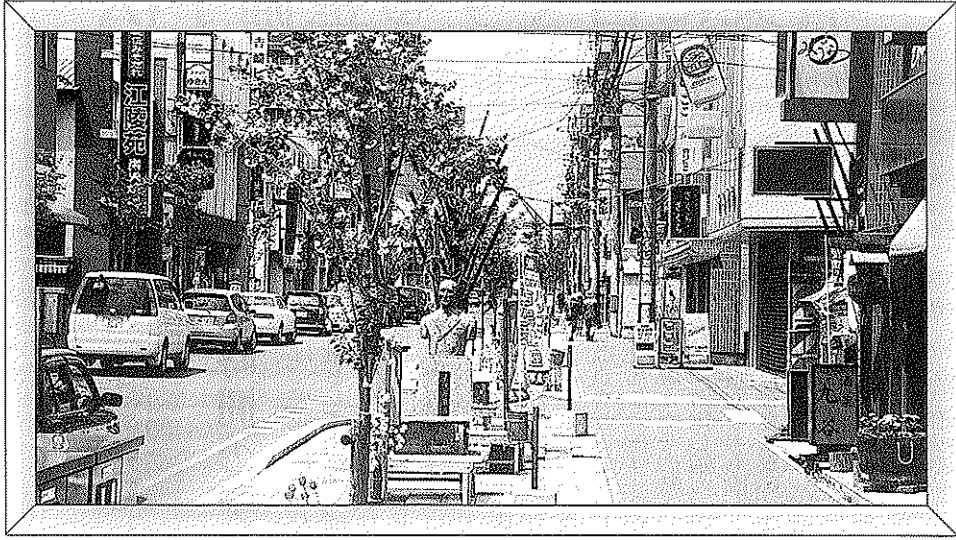


街の活力は  
自立と創造から

# あのまちこの街

## 桜並木の商店街

### とぎれないイベントで話題作り 「かわら版」で戦略的な情報発信



### 本郷商店街振興組合 (札幌市白石区)



### 桜並木が商店街のシンボル 地域の人的資源を有効活用

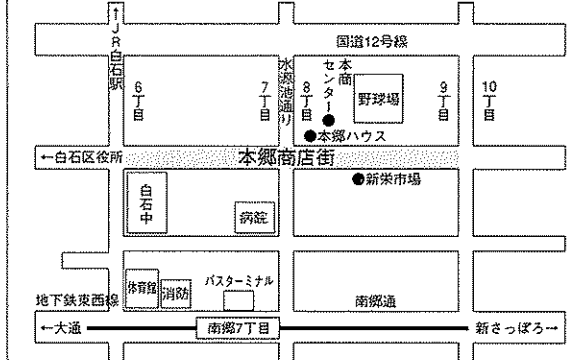
#### 計画的な商店街作り

本郷商店街は、計画的・意図的に作られた商店街である。その起源はほぼ半世紀前になる。昭和三十年代初頭、農村地帯だった本郷で、農整理事業が始まった。故郷を去る地主たちは、商店街の設置を計画、商業を行いたい人に土地を安く分譲した。こうして商店街が形成されていったが、三十年代には人口が思うように伸びず苦戦した。三十九年には、札幌市内四番目の商店街振興組合を設立。四十年代になると商圏を広げ、最も賑やかな時代を迎える。四十九年には一本商センター

#### 桜並木の商店街へ

時代は移り、車社会の到来、大店法改正、郊外や新札幌の商業施設の発展など新たな要因が生じる中、客足は鈍ってきた。またショッピングモールも築後二十年以上経過して老朽化が目立ち、冬の凍結路面の解消も課題となっていた。平成十四年、商店街整備事業の認定を受け、従来部分的に設置されていた「咲」

札幌市白石区は、白フツ面でも創意工夫を凝らし、昭和二十五年札幌市と合併、その後四十七年、「白石区」となった。平成元年、厚別区が分離。現在の人口は約二十万人で、市の人口の約十一%を占める。白石区最大の商店街である本郷商店街は、地下鉄東西線「南郷7丁目」駅から徒歩約五分、JR白石駅からは徒歩約二十分。いずれの駅からも、商業集積地である札幌市中心部および新札幌に数分で直通している。道路交通でも両地区へのアクセスは良好である。本郷商店街は、本格的なショッピングモールを整備した商店街として全道的に有名であるが、このような厳しい競争環境の中で、ソ



#### いつも何かやっている街

現在の本郷商店街では、目玉となるイベントがほぼ隔月で計画的に配置されている。

- 二月 アイスキャンドル
- 五月 さくら祭り
- 六月 よさこいソーラン祭り(本郷商店街会場) 八月 萬歳祭

十月 こども丁稚奉公  
十二月 歳末感謝セール  
・ホワイトイルミネーション

このように途切れなくイベントの連鎖が続くことで、注目を惹き続けることができる。



#### 最大のイベント「萬歳祭」

今回は八月のイベント引き大会・子供ゲームといたった参加型のイベントを組んだ。また道内市町村の物産展、大フリーマーケットを開催。昔の商店街の写真を、ミニSL「弁慶号」の展示などもある。また、期間中SCカード(札幌市と日専連で開発した小型店で導入し易いカード)のポイント二倍セールを行った。このように、子供を含む各層を引き寄せる様々な内容が豊富に組み込まれている。

#### 広報ツール「かわら版」

「本郷商店街から」は、組合事務局が自前で編集している。B4二つ折りで四ページ。第一面では大きめの写真・イラストで目につくようにイベントの予告。新聞折り込みとして配られた際、読者の注意を惹く効果もある。参加型イベントの参加者募集記事も目立つ。第二面以降は個店の広告も多くなるが、個店を扱った一般記事や、個店のイベント情報を集約した記事もあり、広告とそれ以外の区別が意識されにくくなっている。なお新規開店に際しては広告



#### 地域との連携とネットワーク

本郷商店街で目立つのが、リサイクル店の多さである。和服のリサイクルなど、ユニークな店もある。多くは空き店舗に入ったものだが、誘致し入ったわけではない。日頃の情報発信の成果という。比較的手薄な物販業者として歓迎される他、広いネットワークを有することから商店街にとってメリットは大きいという。他にも特徴ある個店が入ることが商店街の知名度アップに貢献している。

十月のイベント「こども丁稚奉公」は実は白石区の事業なのだが、もとも本郷商店街で始まった「一日店長」が起源。現在の商店街で周辺小学校の生徒を受け入れている。

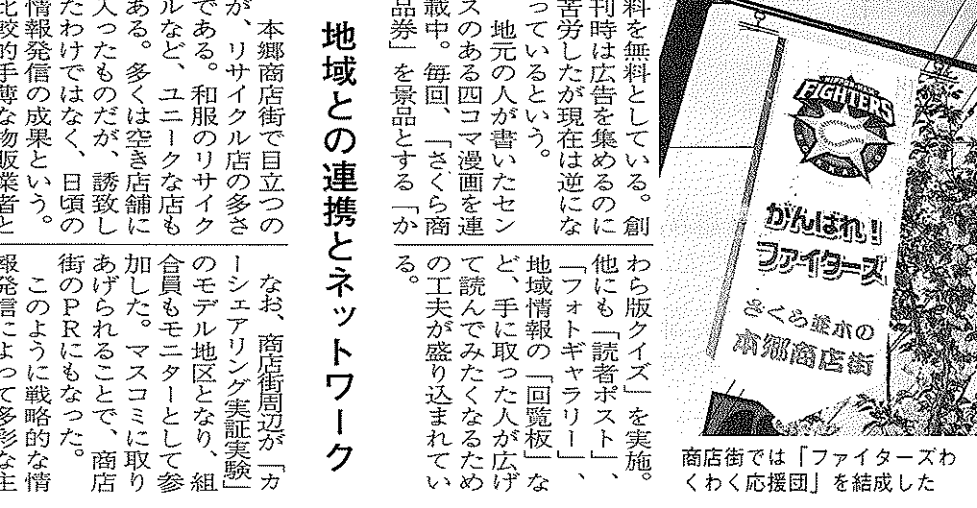
それとは別に、地元の生徒に、清掃、看板・ポスター作成などのボランティア活動の場を提供。子供が動くと、親も動く効果がある。

本紙昨年五月号「商店街活性化策の事例検討」掲載の「本郷ハウス」は、「本郷花クラブ」が運営。休憩所、他物販や子供対象のイベントも行う。



報を住民に発信する手段としては、「本郷商店街かわら版」が約二年前からほぼ隔月発行されておられ、新聞折り込みによって周辺住民に広く配付されている。

その内容は、事後報告ではなく予告が中心であり、主なイベントの直前のタイミングで配付されるように組まれている。こうした情報発信は、集客だけに止まらない意味があるという。まちづくりのために「何かやりたい」という人は案外多い。商店街のイベントでは、例えばパフォーマン



商店街では「ファイターズわくわく応援団」を結成した